

令和5年度 長野市保健所運営協議会 会議録

1 日 時 令和5年8月31日（木）午後1時30分～午後3時7分まで

2 場 所 長野市公文書館2階会議室

3 出席者 委員13名、事務局14名

(1) 委員 釜田秀明、松井雅彦、小林博昭、酒井勇司、原澄、寺田裕明、中谷照由、鈴木隆、風間悦子、伊藤君代、板倉重彦、松島敏史（代理者出席）、横澤秀信

【欠席委員 杉山英子、淵井誠也、馬島園子、平沢久史】

(2) 事務局 小林保健所長、河西保健所副所長兼総務課長、長澤健康課長、大河内食品生活衛生課長、小林環境衛生試験所長ほか

4 公開・非公開 公開

5 傍聴者 なし

6 報道機関 なし

7 会議概要

(1) 開会【午後1時30分】

(2) 委員委嘱

(3) あいさつ（小林所長）

日頃から、本市の保健所運営をはじめ、市行政全般に関しご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

長野市保健所は、今年度、設置後25年目という節目になりますが、この節目を無事に迎えることができたのも委員の皆様のご支援の賜物と重ねて感謝を申し上げます。

この長野保健所運営協議会は、委員の皆様が保健所の業務をご覧になってご指摘、ご助言いただく場として、重要な会議となります。

市保健所が、市民の皆さんにとって、少しでも身近な存在となるよう運営してまいりますので、本日はよろしく申し上げます。

(4) 自己紹介

(5) 会長選出

(6) 議 事

ア 新型コロナウイルス感染症における保健所の取組について（保健所長説明）

イ 保健所業務説明「令和5年度 長野市保健所の概要」（各所属長説明）

ウ 質疑・意見交換

○委員

保護した犬、猫の譲渡について、先日、65歳の方から60歳以上だと譲渡できないという話がありました。確かに高齢者であれば、最後まで飼養できない可能性があるのですが、この対応は分からないわけではありません。

ただ、万が一の際に他の者に譲渡できるような仕組みがあればよいのではないかと考えますがいかがでしょうか。

○食品生活衛生課長

委員ご指摘のように、年齢制限を設けている保健所もありますが、市保健所は、年齢制限を設けてはいません。譲渡する際、自身で飼えなくなった時に預けることができる方を選任してもらっています。

譲渡希望者と詳細にお話をする中で、希望者と犬、猫の年齢をマッチングさせるなどの工夫をし、対応しています。

○委員

健診について、新型コロナの影響で受診率が低下しているということはありませんか。

歯科健診について、切れ目なく、各ライフステージでの歯科健診が重要ですが、働き盛りの世代の受診率が低いこと、また、子どもたちの固いものが噛みにくい、うまく飲み込めないなどの口腔機能発達不全症を今後健診に含めていただきたいです。

○健康課長

がん検診については、新型コロナの影響はなく受診率が戻ってきています。婦人科検診は、受診率は下がっていますが、新型コロナの影響だけではないと考えます。

働き盛りの世代の歯科健診受診率はあまり向上していませんが、かかりつけ歯科医がいる場合、定期受診で口腔状況を確認いただいているので、市の歯科健診を受診する必要がない方がいるためだと考えています。

4か月、1歳6か月、3歳児健診などで子どもの口腔機能などについて、歯科衛生士を中心に力を入れ取り組んでいます。

保育園などでの出前講座も行っています。

○委員

災害時の歯科医療について、顎口腔顔面の外傷などの治療、フェーズ2、3では基本的な歯科医療、口腔指導などが行われますが、現在の歯科における防災訓練のトレーニングはあまり実効性がないように感じます。災害歯科コーディネーターとして活動できる人材が必要で、その指揮下で災害時を想定したトレーニングや情報共有などの打合せが必要と考えています。この点について、ご協力いただければと思います。

○小林所長

医科については、県が災害医療コーディネーターを設置しています。現在、次期医療計画の作成中であるため、歯科のコーディネート制度について、県として取り組むよう要望していきたいと思いません。

○委員

新型コロナワクチンの接種について、令和6年度以降、特例臨時接種からインフルエンザと同様の定期接種に移行する可能性はあるのでしょうか。

○小林所長

国では、インフルエンザと同様の定期接種に移行することを念頭に置きながら考えていくとのことなので、今年度で特例接種は終わるのだらうと思います。

○委員

ペットショップの子犬などの生体販売について法的な規制はありますか。

○食品生活衛生課長

生体の販売を禁止する規制はありません。

ただ、販売のためには登録が必要であり、様々な基準を遵守する必要があります。保健所は、定期的に監視を行い、必要があれば指導を行っています。

○委員

外国人観光客が増加していますが、空港の検疫所でどのようなチェックをしているのでしょうか。

また外国での新型コロナ対策など、情報がなかなか入ってきませんが、保健所で把握している情報はありますか。

○小林所長

確かに外国がそれぞれどういう対策をしているかという情報は必要だと思いますが、この3年半において、具体的にどういった対策になっているか保健所として調べることは困難ですし、国からも情報提供がない状況です。

空港の検疫所では他の疾患と同様の対応となっています。

○委員

経営している飲食店に来た外国人から英語のメニューをお願いされることがあります。料理の英語表記をお願いすることはできるのでしょうか。

○小林所長

インターネットの翻訳機能を活用いただくことも一つの方法かと思います。保健所にご相談いただければ、市の関係部署へ問い合わせするなどの対応をします。

○委員

これからの課題としては、働き盛りの世代への疾病予防、健康づくりがより推進されることを期待しています。特に学校を卒業して就職をした年代や子育てをしている年代の市民への健康教育へのアプローチが必要だと思っています。

若い女性のBMI 18.5未満のいわゆる痩せと言われている方は低体重出生児の出産などの様々なリスクの確率があり、また男性の肥満者は年々増加しており、メタボの予備群としての問題があります。

さらに子育て世代の場合には、その次の年代の食生活や健康にも影響があります。

保健事業の継続性が途絶えていないか、地域全体の健康課題が正確に把握できているかなどを検証し、地域保健、職域保健が連携して健康情報の共有、関係機関相互に有効活用するなど、生涯を通じた継続的な保健サービスの提供体制を整備することを望みます。

その結果が市民の健康寿命の延伸、生活の質の向上、健康経営などを通じた生産性の向上、医療費の抑制化、そういうことにつながるのではないかと思います。

○健康課長

働き盛り世代については、新たな健康増進計画の中で、企業と保健所とのつながりを位置付けていきたいと思っています。

子育て世代については、各種健診の機会を捉え、子供への指導だけでなく、親御さんやご家族へも保健相談を行うようにしています。

今後、働く世代に対しての健康増進について検討していきたいと思っています。

○委員

今年1月に塩分量をみんなで測りました。意外に気を付けているつもりでも、多かったという意見が多かったです。県の会議などに行きますと、健診項目に加わっているという市もありました。お金を多少払っても市民健診の中にそういうものを加えていただけたら、少し塩分を控えていただくという、ちょっとしたきっかけになると思いますので、ご検討いただければと思います。県でも例年5,000人に対して塩分の調査をしています。絶対的に働き盛りの方たちの塩分摂取量が多かったのも、その辺を少し気を付けるようなアプローチをしていただければと思っておりますので、ご協力をお願いできればと思います。

○健康課長

ありがとうございます。検査項目の追加につきましては、検討が必要ではありますが、みなさまの塩分を知る機会を何らかの形で提供していくことは必要だと思いますので、ご意見としていただきたいと思っております。

○会長

特定健診の検査項目は、国の方針に基づいているため、市町村や都道府県では決められません。人間ドックで別の意味合いの検査を進めていくのも必要だと思います。私たちが行った健診の中で、今日飲んだみそ汁を持ってきてくださいということをして、栄養士が塩分濃度を測ったりしていたことは、非常に評判が良かったです。このような取組は別枠でできると思っておりますので、検討をお願いします。

○委員

普段、障害者相談支援センターで障害者の相談にのっていますが、延べ約9,000件で50%以上の方が精神障害に関する相談で、地域保健の進行とともに、障害の重症化、高齢化ということもあり、精神障害者の生活、健康への支援が求められています。

自立支援医療で通院しながら一般就労されている方も多いと思いますが、障害が重度でなかなか就労できない方の場合、健診など受診できる機会がなかなか難しい状況です。

福祉医療制度について、精神の手帳1級2級の通院まで拡充されましたが、入院が対象になっていません。お金がなく、就労も難しい重度の精神障害の方、1級2級の方の場合、入院や医療にかかることができず、精神科だけでなく精神科以外の病気になったときに入院費で困ってしまいます。

支援や受診率向上も含め、障害のある方についての健康保険についてお伺いします。

○小林所長

ご提案ありがとうございます。個々の精神障害者であれば、体の健診は勧めていますし、障害部門でいろいろと取り組んでおりますので、今のご意見をお伝えしながらさらに進めていければと思います。

福祉医療については、市議会でもご提案、ご指摘もいただいているところでありますので、担当課に伝え、制度の拡充を進めていければと思います。

○委員

最近、精神障害の方に関する業務が非常に多い状況です。保健所概要に記載されている、医療保護の数字が障害者の人数になるということによろしいですか。

○健康課長

医療保護入院の件数ですが、例えば、措置入院をされて、医療保護入院に切り替わった方や最初か

ら医療保護入院された方の件数となります。

○小林所長

おそらく、措置入院が関係している人はこの中でわずかで、最初から、警察からのルートではなく、家族などが病院へ連れて行って医療保護になる人が多くなっています。この数字は、どういうルートからかは別として、医療保護になっている人の報告を法律に基づいて、市内の医療機関が保健所に報告した件数となります。

○委員

引き続き連携して対応いただきたいと思います。

負傷した犬猫の他、迷い猫は、保健所に引き取ってもらうことは可能なのでしょうか。警察に非常に多くの相談があります。犬の場合はある程度飼い主がわかるのですが、猫の場合はなかなか難しいので、その場合の引き取りをお願いすることは可能なのでしょうか。

○食品生活衛生課長

猫は、屋内で飼育しなければならない決まりがありません。猫が外をただ散歩している場合もあるため、この場合、捕まえることはしないで、引き取りはせず、そのままにします。

ただ、段ボールに入って動けない状況の猫である場合等は、明らかに猫の自由が奪われ自由に動けないので、捨てられたと判断します。それについては警察から状況を聞きながら対応させていただきます。

○小林所長

対応に難しい場合はご相談いただければと思います。

さきほどの件ですが、精神保健の自傷他害で通報を受けてというのは県の保健所が担当となりますが、市保健所にも連絡をいただければ、連携を図り進めていければと思います。

○委員

新型コロナが5類に移行し行動制限が緩和され、学校教育活動もコロナ前に戻ってきました。ただ、文化祭での集団感染やインフルエンザの学級閉鎖も起きている状況です。

熱中症も警戒する必要がある、体育館が暑いので全校集会をリモートで行っています。

不登校について、全国的にも不登校の生徒が増えています。新型コロナによる事情で休む場合は、欠席日数にカウントせず、これは長期欠席には反映されません。しかし5類移行により、出席停止扱いがなくなったため、今まで表に出なかった不登校の問題が浮き彫りになってきました。正確なデータはありませんが、不登校気味の生徒の母親は、心が疲れ、精神状態が良くない状態である場合が多いと感じています。子育てをしている親御さんの心のケアが必要だと思います。

○小林所長

インフルエンザは、もともと夏でも感染者はいました。冬というイメージがあり検査をあまりしていませんでしたが、今年は、夏であっても検査をしているため感染者数が増えていると考えています。文化祭で集団的な感染もありましたが、今後どのように感染症と付き合うかといったことだと思います。

親御さんのそのような状態は、新型コロナの影響による部分もあるとの指摘もあり、また、雇用、賃金などといった部分もあり、委員のご発言のように子供への影響もあるかと思います。我々もそういった相談には、しっかり対応していきたいと思います。

○保健所長閉会あいさつ

委員の皆さんから貴重なご意見、ご助言をいただきましたので、ぜひ今後の保健所運営に役立てていければと思っております。本日は大変ありがとうございました。

(7) その他

なし

(8) 閉会【午後3時7分】

(9) 施設見学

犬舎、猫舎、環境衛生試験所